



大嶋 政繁

参集署 西
平成27年3月31日退職

1 消防に入るきっかけ

昭和48年に高校を出て、家業を2年間手伝っていました。が、もともとは公務員志望でしたので、たまたま大阪市消防局職員募集の新聞広告を見つけて受験しました。体力測定が鳴野の旧消防学校で行われましたので、木造の校舎の古さにびっくりしました。

昭和51年4月に東大阪の一期生として119名の一人として、消防人生の第一歩を踏み出しました。学校は

2 救助隊員として…

新築で、教室も寮も快適でしたが、グラウンドの石ころ拾いや草引きをよくやりました。

港に配属され、土長になって福島と現場の少ない署で勤務をしていましたが、主任になって南消防署南阪町出張所の救助隊長として、連日のように火災や救助現場に出動する事になって救助に目覚めました。合区により中央消防署の本署救助隊長として6年間勤め、南方面隊に異動して3年間、現場活動を全体的に見る勉強になりました。司令に昇任して西成の本署救助隊長として4年間。その後、指令課に異動して、初めて指令室の仕事に就きましたが、顔の

3 市民目線で…

見えない市民との対応に苦労しました。

西で地域担当になった時に、署長から「市民目線で地域の行事に参加させて貰う事等々」また、忘れられない上司の言葉を踏まえて、市民の中に入って仕事が出来たと思う2年間でした。

最後は、西の副署長をさせて貰って、39年の消防人生を卒業しました。

4 印象に残った仕事

平成15年（2003年）10月に発生した十勝沖地震で、出光興産北海道の原油タンク火災に緊急消防援助隊として、10月15日～21日の一週間派遣されて、大量送水システム（ドラゴンブースト）を1km延ばしましたが、小雪が舞って、寒かったのを覚えています。引き揚げるときに職員の皆さんが、一列に並んで敬礼されている姿にジ

5 忘れられない上司の言葉

ンとききました。無事に消防局に着いた時に、用意して頂いた握り飯が美味しかった。

西消防署長当時の石井さんの言葉で、「前例主義になるな。初めから無理だと言うな。消防を好きになれ」。

6 後輩へのアドバイス

自分の仕事に誇りを持つ事、そして、真面目が一番。助け合う絆を大切にしてください。

行動を起こす前に、一歩立ち止まり、相手の立場になって考えて欲しい。

7 健康が第一

両眼の網膜剥離、脊椎狭窄症を患った時には家族のサポートが有難かったし、無事に定年退職を迎えられたのも、日々の平穏な生活を支えてくれた家族のお蔭だと感謝しています。